

		測定する能力		
論理的言語力	論理的読解力A	論理的読解力B	論理的思考力	論理的表現力
日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえたり、「ことばのつながり」、指示語・接続語などを論理的に扱う力。	文章を論理的に読む力。趣旨を的確に把握する力。小説などを客観的に読む力。	文章構造を論理的に解説する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。	他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

問題I 論理的言語力

第一問

■解答 (2点)
表現は

■解説

「時間の早さとともにかなさを」あらわしているのは何かと考えると「表現は」が答え。

第二問

■解答 (各3点)

■解説

(1) 「効果が」↓「ない」が、主語と述語の関係。
(2) 「月が」↓「照らしていた」が主語と述語の関係。「橋を」↓「照らしてた」、「くつきりと」↓「照らしていた」と、言葉がつながる。

第三問

■解答 (各2点)

■解説

(1) たとえ (2) さぞ (3) むしろ
副詞の呼応の問題。
(1) 「たとえても」と呼応関係に着目。
(2) 「さぞさろう」と呼応関係に着目。
(3) 「AむしろB」は、Aと比べてBの方がいい場合に使う。

第四問

■解答 (各2点)

■解説

(1) 「道が」↓「混んでいた」が、主語と述語の関係。「隅田川の」↓「花火大会だから」↓「混んでいた」、「今日は」↓「混んでいた」、「とても」↓「混んでいた」とつながる。
(2) 「(私は)」↓「した」が主語と述語の関係だが、主語は省略されている。「一日の」↓「終わりに」↓「した」、「自分への」↓「(こ)ほうびとして」↓「した」、「ゲームを」↓「した」とつながる。
(3) 「あの」↓「人に」↓「会えたら」、「夢で」↓「会

えたら」、「会えたら」↓「いいだろう」、「どんなに」↓「いいだろう」とつながる。

第五問

■解答 (各2点)

■解説

(1) ウ (2) エ (3) イ (4) オ (5) ア
(1) 逆接の「でも」。
(2) 添加(付け加える)の「そのうえ」。
(3) 因果関係の「だから」。
(4) 選択の「それとも」。
(5) 例示の「たとえば」。

第六問

■解答 (各2点)

■解説

(1) 「事」を修飾する「の」。
(2) 場所をあらわす「を」。
(3) 断定の助動詞「だ」の連用形。
(4) 「から」にくっついた係助詞「は」。
(5) 主語の「が」。

問題II 論理的読解力A

第一問

■解答 (6点)

■解説

君のスケッチ帳に縮め込まれた同じものが「自然の影絵」なのか、直前に該当するものがないので、直後を検討すると、「君のスケッチ帳に縮め込まれた同じもの」が該当箇所。君は自然の命を写そうとしていたが、スケッチ帳に描かれたものは結局は自然の影絵でしかなかったということ。

第二問

■解答 (各2点)

■解説

(a) ウ (b) ア (c) イ (d) エ
接続詞と副詞が混じった問題。

(a) 「それ」|| 「自然の影絵」と言い換える「いわば」。
(b) 順接・添加の「そして」。
(c) 「日が傾いている」のに、「とてもそこを立ち去る事はできない」ので、逆接。
(d) 山の生命感と比べれば生きた鷲が死物に思えるならば、ましてや「百姓家」など、無機物にすぎないということ。

第三問

■解答 (6点)

■解説

心情を客観的に読み取る問題。直後の「謙虚」から、ア「手応えを感じて」が×。さらに、直後の「執着」「粘り強い根気」から、イ「絶望しながら」、「やめようか」が×。

第四問

■解答 (6点)

■解説

「小さな黒い点」|| 「それ」|| 「二羽の大鷲をつかむこと」。

第五問

■解答 (8点)

■解説

君は思わず
第五段落冒頭の「君は思わずため息をついた」の原因が、欠落文の「霧」と言うべき薄い膜が君と自然との間を隔てはじめた。君は山の命を夢中に写し取ろうとしていたが、もう辺りは暗くなり始め、山から下りなければならなくなったのだ。

第六問

■解答 (各2点)

■解説

(一) 「君」と「K」のどちらのセリフかを考える。「君」のセリフは、「君」が絵を描いたことから、アかイ。それに対して、「K」は君の絵を見ている立場だから、ウかエ。
(二) 「君」のセリフ。「君」は自分の絵に満足していないから、イ。
(三) それに対する「K」のセリフ。「K」は君の絵を気に入っているから、エ。
(四) 「君」のセリフ。実際の山の形に比べて、自分の絵は山の影絵にすぎないと思っっているから、ア。
(五) 「K」はそうした「君」の気持ち理解できないから、ウ。

問題Ⅲ

論理的思考力

第一問

■解答 (10点)

今の教育では未知の出来事に自分で判断する力を身につけることができない。

■解説

話題は「今の教育」。筆者の主張は「将来起こるであろう未知の出来事に対して、自分で判断する力を身につけることができない」。

あとは、字数条件を念頭に余分な言葉を削っていく。「将来起こる」と「未知の」はどちらか片方で構わない。

第二問

■解答 (各5点)

- (1) ア (2) カ

■解説

(1) 国語の試験で大切なのは論理的に考えるからである。

「大切なのは」である「が」、主語と述語の関係であることをつかむ。あとは、「国語の」↓「試験で」↓「大切なのは」、「論理的に」↓「考える」↓「ちから」と、言葉のつながりを考える。

(2) そんなに急なことを言われてもそう簡単に変えられないよ。

「できないよ」と「言われても」の二つの述語があることをつかむ。「そう」↓「簡単に」↓「できないよ」、「そんなに」↓「急なことを」↓「言われても」と、それぞれの述語に対する言葉のつながりを考える。

第三問

■解答 (各6点)

- (1) キク (2) オケ

■解説

まず述語に着目する。

(1) 雨が降ってきたけれど傘がなかったので雨宿りをした。

「雨が」↓「降ってきた」、「傘が」↓「なかった」、「(私は)」↓「した」が、主語と述語の関係。

(2) 僕は好きなことになる夢中になって時間を忘れてしまう。

「僕は」↓「忘れてしまう」が、全体の主語と述語の関係。「好きなことになる」と「忘れてしまう」、「夢中になって」↓「忘れてしまう」、「時間を」↓「忘れてしまう」と、それぞれが述語を修飾している。

第四問

■解答 (8点)

エ

■解説

冒頭から、敬語が話題だと分かる。「」でもな

い。むしろ」とあるので、「むしろ」のあとが筆者の主張。敬語がコミュニケーションのための高度な言語表現であることが、筆者の主張。

問題Ⅳ

論理的読解力B

第一問

■解答 (各2点)

- (1) ア (2) ウ (3) オ

■解説

(1) 言い換えの「つまり」。

(2) 例示の「たとえば」。

(3) 因果関係の「だから」。

第二問

■解答 (各5点)

第二段落 現実には流

第三段落 では、芸術

■解説

第一段落は、「芸術は普遍的なものであろうか」と、問題提起。

その答が、第二段落の「現実には流行というものが存在し」以下となる。筆者はピカソの例を挙げながら、普遍性とは逆の「流行」について述べている。

第三段落が「では、芸術は普遍的ではないのか」と、問題提起をしながら、最後まで芸術の普遍性を述べている。

第三問

■解答 (8点)

ある ↓ ない

■解説

芸術の普遍性について述べているのだから、「西洋人でも日本人でもそれほど大きく変わることはある」を、「ない」に変えなければならない。

第四問

■解答 (8点)

二

■解説

筆者は芸術の普遍性を主張しているのだから、それを否定している第二段落が答。

第五問

■解答 (8点)

イ

■解説

「表題」とは趣旨を語句の形に縮めたもの。筆者は芸術における「流行」と「普遍性」について述べているので、イが答。

問題Ⅴ

論理的表現力

第一問

■解答 (10点)

女性が六・八パーセント多い。

■解説

グラフ1から、「充実している」と感じている人は、男性が10・1+59・9≒70%。

それに対して、女性は、11・7+65・1≒

76・8%。76・8-70≒6・8

第二問

■解答 (6点)

若年層

■解説

グラフ1から、年齢が上がるにつれて、「充実している」と感じている人が、60〜69歳を除いて、徐々に減っていることが分かる。

第三問

■解答 (6点)

余暇を楽しんでいる時

■解説

グラフ2を見ると、「家族団らんの時」「ゆつたりと休養している時」など、仕事以外の時間を過ごしている時が上位にきている。

第四問

■解答 (5点)

六・三パーセント

■解説

グラフ1で、人数は60〜69歳 141名、

70歳以上は144名。合計2851名。

「充実感を感じていない」人の割合は、

60〜69歳が4.2%、70歳以上は8.3%。

60〜69歳 141人×4.2%≒60名

70歳以上 144人×8.3%≒120名

60歳以上で「充実感を感じていない」人の数は、

合計 約180名。

180÷2851×100≒約6.3%

完全に割り切ることができないので、6.3%前後

であれば正答。

第五問

■解答 (12点)

女性の若年層のほうが仕事と余暇とを明確に区別

し、それぞれの時間を十分楽しむことが上手であるから。

「別解」女性の若年層のほうが、「家族団らんの

時」などの余暇で、人生をより充実させ

ることが上手であるから。

「別解」女性の若年層のほうが、「男性」より「女性」、

「高年齢層」より「若年層」なので、女性の若年層と

いう組み合わせが答。

グラフ2から、仕事以外の時間≒余暇を十分楽し

んでいることが分かる。